



1. 難しいけれど楽しい野菜ブーケ作りで夢中 / 2. 明るく和やかな木村先生のお話に参加者も真剣 / 3. ブーケを作った後は、実際に野菜を食べてみよう。素材の味を生かしたシェフの料理に舌鼓 / 4. みんなの作品を並べて記念撮影。お家でおいしくいただけます。(撮影場所：U-プレイス伊達)

「おいしく楽しく GAP を学ぶ」

6月26日④、「良い農業の取組み（GAP）」の理解を深めることを目的に、GAP 認証を受けた農産物を使用した野菜ブーケ作り体験を行いました。講師に、ベジタブルプロダクトプランナーの木村美紀子さんをお招きし、市内外から 20 人もの参加者が集まりました。初めて経験する人も多く、野菜をきれいに束ねることに苦戦しながらも、色鮮やかな野菜で一人一人のブーケを作り上げました。参加者からは「これからはお買い物のときに GAP 認証を少し気にしてみようと思います」と感想が聞けました。



市長コラム 第68回
「五輪の思い出」

須田博行

過去の
コラム



私のスポーツ（大好き）人生に影響を与えたオリンピックが二つあります。一つは、1964年の東京オリンピックです。私は当時6歳で、今でも鮮明に覚えているのが、体操の団体戦と個人総合での遠藤幸雄選手（えんどうゆきお）の金メダルでした。特に体操が好きだったという訳ではないですが、宇宙遊泳のような演技の連続に魅せられてしまったのかもしれない。

もう一つは、1972年の札幌オリンピックです。私が13歳の時、70m級ジャンプで笠谷が金、金野が銀、青地が銅を獲得するなど「日の丸飛行隊」が活躍したオリンピックでした。でも、私が本気になって見ていたのは、滑降、大回転、回転などのアルペン競技でした。その頃スキーを始めたばかりの私は、出場選手のスピードとテクニクに憧れ、少しでも近づきたいと思ったことを覚えています。

その後の私のスポーツ歴は、体操に関しては、好きだった鉄棒に

おいても技が決まらず、高校時代に限界を知るに至りました。一方スキーは、雪が降ると近所に適当な斜面を見つけては練習し、バスと電車を乗り継いではスキー場に通いました。自己流ではだめと気づきスキースクールで基礎から学び直し、また、SAJ※認定のスキークラブに入会し、丁寧な指導のおかげで準指導員を取得することができました。

このように、小中学生の時に見たオリンピックが、好きで夢中になれるスポーツに導いてくれたのだと思っています。

さて、パリオリンピックが7月26日に開幕し、32競技329種目で熱戦が繰り広げられます。このオリンピックを契機に私が新たなスポーツに挑戦することは難しいと思いますが、子どもたちには、日本人が活躍する場面だけでなく、各競技で繰り広げられる一流の技と強い精神力を見てほしいと思います。

※公益財団法人全日本スキー連盟の略称。